

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社にじいろキャンバス
施設名	にじのき保育園
報告者（役職）	田中 良昌（主任）
住所・連絡先	千葉県市川市行徳駅前 1-24-1
	☎ 047-307-3622
	E-mail nijiirokyanbasu216@yahoo.co.jp

○タイトル（保育計画）

笑顔を贈る絵本、紙芝居、パネルシアターとの出会い

○主な助成備品

絵本、紙芝居、パネルシアター

1. 保育計画策定の目的

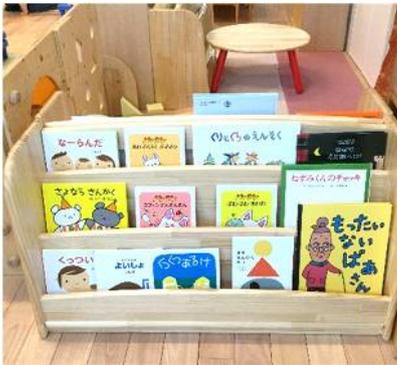
当園では日々の保育、季節の行事、クッキング、製作の導入の折などに絵本、紙芝居、図鑑を使用しています。また、本物に触れる経験を大切にしており、保育室内にはグリーンやアクアリウムなどイミテーションではなく命のあるものを設置しています。本物への興味関心を高め、探究心を深め、知識の獲得にも繋がるよう、絵本を充実させたいと考えています。子どもたちが保育士などに抱っこされながら絵本に手を伸ばす姿、読み聞かせの折、身を乗り出して見入る姿などを微笑ましく思い笑顔が溢れています。保育の中で絵本を通したコミュニケーションも多く、子どもたちもそれぞれにお気に入りの絵本を保育士などに差し出し、繰り返し楽しむ姿が見られています。子どもたちは自分の興味に合わせて、電車や動物、植物の図鑑なども楽しみ、私たちが驚くほどの集中力で様々な知識を吸収しています。この感動を保護者にも知ってほしく、貸し出しをすることで家庭でも共感したいと思っています。現に家庭でも絵本を読むという保護者の方が多く、保育園からおすすめの絵本を紹介したり、逆に家庭でどんな絵本を読んでいるかを教えてもらったりするなど、コミュニケーションの一つとして活用し、より良い関係作りのきっかけとなるような取り組みを行いたいと思いました。子どもは一生で一度のみの大切な時間を保育園で過ごしていますので、予算のない中でもできる事がないかと考え、皆の笑顔が増える機会をより多く作ることができたらという思いから、計画しました。

2. 具体的な実施内容

①日常から絵本と触れ合う、絵本コーナーの充実

開園当初は冊数も少なく、コーナーの絵本は据え置きの状態でした。助成後は数・種類共に豊富になり、季節感に合わせたもの、子どもの興味関心に寄り添ったもの、行事など特別感のあるものなど様々な種類の絵本を提供することができました。今では各年齢に1台の絵本棚を設け、それぞれの年齢に適した絵本を月毎に構成を変えて提供しています。

多くの選択肢がある中で、保育士などが子どもたちの「今」と「これから」を見据え、何に興味を持っているのか、季節感は合っているのか、対象年齢はふさわしいのかを検討し、月毎に絵本を入れ替えています。



②調理と連携した「月別テーマ絵本」

本園では「本物に触れる」観点から、0歳児からの食育も大切にしています。調理が月に旬の食材を設定し、その食材を見たり・触れたり・嗅いだり・味わったりしています。テーマ食材が登場する絵本を「月別テーマ絵本」として、調理と保育が連携しながら食への興味関心を高める取り組みを行っています。

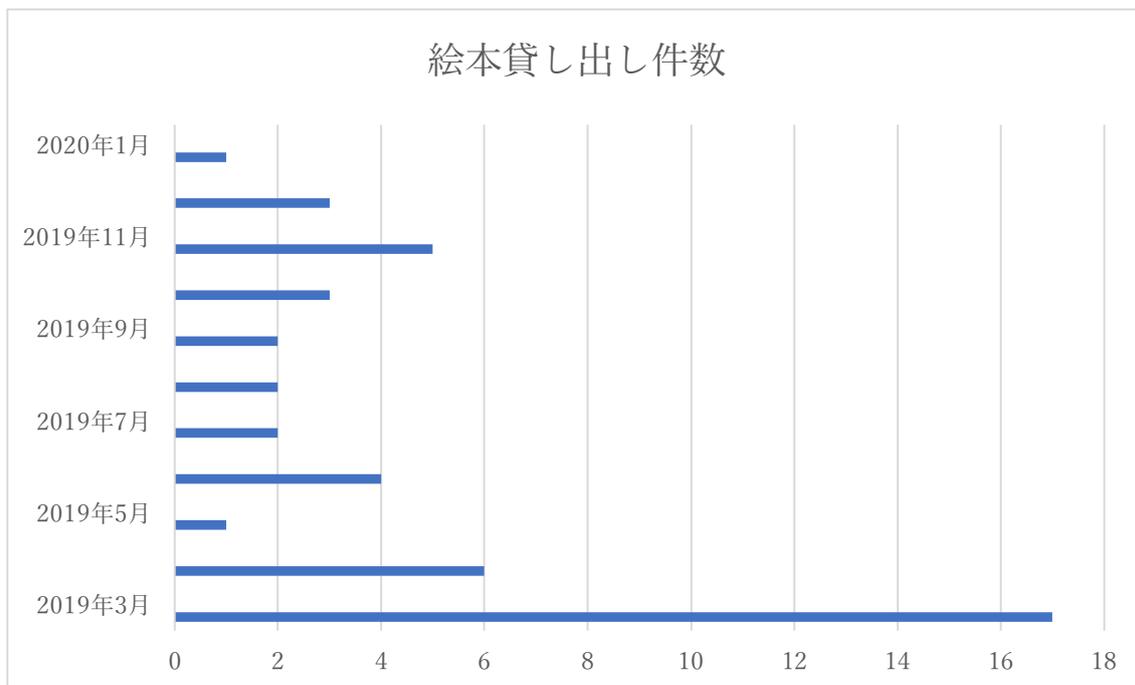


【年間テーマ食材・絵本】

月	食材	絵本
4月	春キャベツ	きゃっきゃっきゃべつ
5月	さや野菜	そらまめくんとおまめのなかま
6月	トマト	トマトさん
7月	夏野菜	おやおや、おやさい
8月	梨	くだもの
9月	魚	さかなをたべる
10月	カボチャ	14ひきのかぼちゃ
11月	きのこ	いろいろきのこ
12月	米	14ひきのもちつき
1月	豆	まめのかぞえうた
2月	海苔	オニじゃないよオニギリだよ
3月	カブ	おおきなかぶ

③絵本貸し出しの実施

毎週金曜日（祝日の場合は木曜日）に絵本貸し出しを行っています。貸し出しの際には職員に声を掛けてもらい、保護者とのコミュニケーションの場も大切にしています。返却時には感想も提出していただき、ご家庭での様子を聞き取りながら今後の進め方の参考にさせていただいています。



3. その成果と評価

絵本を通じた同年齢かつ異年齢での関わりが深まりました。年上の子が年下の子に絵本を読んであげたり、絵本コーナーで1冊の絵本を友だちと一緒に見たりする姿が見られています。絵本や図鑑を通して得た知識や楽しさを他児と共有する様子は、絵本を興味関心、時期、発達に応じて丁寧に選別した結果だと自負します。



絵本を読む際、「自分に」ではなく「他人に」見えるように読む姿が特徴的でした。

読む楽しさと読んであげる楽しさを感じている姿は、異年齢ならではの楽しみ方なのだと思います。



乗り物図鑑を一緒に楽しむ0歳児と1歳児。年齢は違えど、興味関心にその差は関係ありません。



散歩で見つけた綺麗な蝶々。「なんて名前かな？」と図鑑を広げ、子どもたちの研究が始まりました。

「本物に触れる」活動を通し、知的好奇心を大いに深めている子どもたちに、図鑑というツールは必要不可欠なのだと思います。

4. 今後の課題と展望

絵本貸し出しコーナーは表にあるように貸し出し数が多いとは言えません。保護者の方が手に取りやすいよう、借りて読んでみようと思えるようなアプローチが必要なのだと感じます。しかし、貸し出しを利用した保護者の方からは、「借りて面白かったから購入しました」「この作家さんの違う作品はありますか？」など、前向きな反応もいただくことができました。

今後はさらに貸し出しの件数が増え、家庭での親子コミュニケーションのきっかけになるよう、提供の方法を検討していきたいと思っています。

以上